

平成26年度第2回東成区区政会議 にぎわい・きずな部会 会議録

1 開催日時 平成26年10月10日（金） 17時30分から19時15分まで

2 開催場所 東成区役所 3階304・305会議室

3 出席者の氏名

【委員】

松山 正樹（にぎわい・きずな部会議長）、中野 壽夫（にぎわい・きずな部会副議長）、
岡本 秀男、北岸 佳子、桑田 泰彦、篠崎 桂子、辻 日出子、西村 良之介、
平田 芳男、山本 忠男、吉田 五郎

【府会議員】

岩谷 良平

【東成区役所】

森本 万喜子（東成区長）、木口 剛一（東成区副区長）、河合 宏成（総務課長）、
笹部 毅（区政総括担当課長）、中浦 進（まちづくり推進課長）、
原 敏浩（地域活動支援担当課長）、
山口 哲央（まちづくり推進課防災・防犯担当課長代理）

4 委員に意見を求めた事項

平成27年度東成区運営方針（素案）策定に向けた方向性について

5 議事内容（発言者氏名及び個々の発言内容）

【笹部課長】 皆さん、本日は非常にお忙しい中、平成26年度の第2回目となります東成区区政会議 にぎわい・きずな部会にご出席いただきまして、まことにありがとうございます。私、進行を進めさせていただきます区政総括担当課長の笹部と申します。

座って説明させていただきます。

それでは、早速ですが、開催にあたりまして、区長の森本より一言ご挨拶させていただきます。

【森本区長】 皆さん、こんばんは。ほんとうにお忙しいところお集まりいただきまし

てありがとうございます。それから、前回の第1回目の部会につきましても、活発なご意見を頂戴しまして、ほんとうにありがとうございました。

週末に2週続けて台風が近づいてきておりますけども、ここの部会の担当でございます安全・安心というのは、区民の方々にとってもほんとうに関心ごとというか、大切なことでございますし、また、にぎわいという点では、東成区はモノづくりであるとか、歴史であるとか、ほんとうにブランドというか、大切なものがたくさんあるまちだと思っております。

そういう点を27年度の運営方針で区役所が何をしていったらいいかということを、きょうは少し事前にメモも書けるようにしていただいているんですけども、忌憚のないご意見をいただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【笹部課長】 それでは、本日のにぎわい・きずな部会の開催状況でございますが、委員18名中11名の出席をいただいておりますので、本部会が有効に成立している旨、ご報告申し上げます。

次に、本部会の公開につきましては区政会議に準ずるとなっておりまして、議事録や写真等につきましては公開する予定でございます。ひとつご理解とご協力よろしくお願いいたします。

本日お越しいただいております皆様に1つお願いなんですけど、携帯電話につきましてはマナーモードか電源をお切りいただくようお願いいたしたいと思います。また、議事が始まりましたら私語等のご遠慮いただきたいと思います。その点、ひとつよろしくお願いいたします。

それでは、お手元の資料の確認をさせていただきます。

別添の、まず、資料といたしまして配席図。この配席図につきましては、1枚めくっていただきまして、急きょご欠席になられました貝本委員の席に、急きょご出席いただけることになりました山本委員に着席していただいております。その点よろしくお願いいたします。次に、にぎわい・きずな部会の委員名簿、次第、それと、平成26年度東成区区政会議 これまでの経過と今後の予定について、それと、平成27年度東成区運営方針（素案）の策定に向けての「地域力」、安全・安心「防災」、同じく安全・安心「防犯」、最後に東成区の概要ということで、統計データ等をつけております。

過不足あれば挙手いただければ結構かと思いますが、いかがでしょうか。

それでは、議事に移ってまいります前に、本日の部会の位置づけについて簡単にご説明

したいと思います。資料の平成２６年度東成区区政会議 これまでの経過と今後の予定についてという資料をごらんください。

今年度は５月９日に新区長に森本を迎えてから初めてとなる区政会議の全体会を開催し、年度の開始にあたって、今年度の運営方針並びに予算につきまして、ご意見をいただいております。

そして、その２段目ですが、７月に入りまして、東成区といたしまして初めて３つの部会を開催し、前年度の運営方針の振り返りといたしまして、区役所が行いました自己評価と、今年度以降の区政運営につきましてご意見をいただいております。

その上で、３段目といたしまして、８月２６日に第２回目の全体会を開催いたしました。そこで各部会で出されました意見等のご報告をいただいて、平成２５年度の区政運営に対する外部評価として、皆様からさまざまな意見をいただいたところでございます。

そして、今回の部会ですが、下段のほうです。今後の予定を見ていただきたいのですが、今後の予定の１つ目、第２回目の各部会の開催ですが、来年度、平成２７年度の区政運営の基本となる運営方針（素案）を策定するにあたりまして、区役所が考える各課題に対する取り組みであるとか、その方向性につきまして、皆様からご意見をいただきたいと考えております。

その上で、いただきましたご意見を参考にさせていただき、各課題に対する具体的な取り組みというものを策定いたしまして、１０月２９日に第３回目の全体会で運営方針の素案をお示ししてまいりたいと考えております。この間、全体としてかなりの回数を開催させていただいておりますので、ひとつその点のご理解をよろしくお願いしたいと思っております。

それでは、以降の部会の運営につきまして、松山議長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

【松山議長】 皆さん、こんばんは。松山です。

それでは、今年度２回目のにぎわい・きずな部会、ただいまより始めさせていただきます。

座らせていただきます。

本日の議題は、今、区役所のほうより説明のありましたとおり、平成２７年度の東成区運営方針（素案）の策定にあたりまして、各課題に対する取り組みの方向性について、皆様のご意見をいただきたいと思います。本日皆様からいただきました意見を参考

にいたしまして、来年度の東成区の区政運営の方向性と、その実現のための具体的な取り組みを策定する重要な場となっております。できるだけ前向きなご意見をよろしくお願いいたします。有意義な会議にしていきたいと思います。

それでは、早速ですけれども、区役所より説明を受けていきたいと思います。説明は1項目ずつ行っていただきまして、それぞれの項目ごとに委員の皆さんのご意見をお聞きしていきたいと思います。できるだけ全ての委員の皆さんにご意見をお聞きしたいと思っていますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

それでは、説明よろしくお願いいたします。

【原課長】 お世話になっております。区役所まちづくり推進課の原でございます。

それでは私から説明してまいります。

1点目の課題は「地域力」でございます。資料は、大きな紙の右端に、課題「地域力」と書いているほうをごらんください。左のほうから、要点だけ説明してまいります。

まず、現状でございますけれども、地域活動に取り組んだことのある区民の割合が、昨年の区民モニターアンケートによりますと35.9%。1つ飛ばしまして、地域活動に参画しやすい環境が整っていると感じている区民の割合、これもほぼ同じ数字で34.2%でございます。ですから、3人に1人ぐらいの方が参加しやすい環境が整っていて、実際に活動もされているという状況になっております。

その下の要因分析でございますが、ご存じのように、東成区は町会の加入率も非常に高く、活動も活発に行われておりますが、従来からいわれていることでございますけれども、活動者の高齢化であったり、固定化ということが課題に挙げられております。

そのことから、その下の課題のところですが、より多くの多様な区民が参加できるように、いっそう開かれた組織運営の地域コミュニティづくりを進めることが必要であるというのが一番のポイントだと考えております。

それでは今年、26年度、どのようなことをしているかというのが、別紙のちょっと小さい紙のほうをごらんください。右肩に別紙と書いているものです。A4サイズです。

まず、①で区民主体のまちづくりの仕組みの構築の項目でございます。これは、主に地域活動協議会に関することですが、大きな丸の1点目、財政的支援です。区内11地域に地域活動協議会の補助金を既に交付済みでございます。それに基づいて各地域が活動されておるということでございます。

丸の2つ目ですけれども、新たな担い手づくり支援ということで、上の補助金とは別に、

地域活動協議会を立ち上げた初期の活動を支援するということで、補助金を交付しております。これについては、今5つの地区で申請がされておるところでございます。

その下ですけれども、3つ目の丸に地域コミュニティの支援という項目がありますが、これはそういった地域活動協議会を支援するにあたって、中間支援組織、区役所の1階のふれ愛パンジーのところに事務所を配置しており、今年は大阪NPOセンターが受託されて、支援員の方が各地域に出向いていって、具体的な支援をしているところでございます。

次に②については多様な協働による地域活動の活性化ということで、これも1つずつ項目を見ていきますと、丸の1つ目が区民による公益的活動の創出・発展支援事業でございます。これは主に講演会を開催したり、さまざまな活動団体に対する相談窓口を設置したりしております。これも主にふれ愛パンジーで取り組みを進めている事業でございます。

その下には広域・多様な区民・市民によるネットワークと東成ブランドイベントの育成事業ということで、これについても企画チームの会議などを開催しておるところでございます。

その次は、未来わがまち推進会議を要とした区民主体のまちづくり活動への支援事業でございますが、全体会、班会議を行いまして、今年10年の節目を迎えるにあたって、今後のわがまち会議のあり方についても検討していく必要があると考えております。

別紙については以上でございます。

もう一度こちらの大きい紙のほうに戻っていただきまして、そういった現状、それから今年の取り組みを踏まえて、大きいページの右側、区役所が考える今後の方向性でございます。

まず、一番上から見ますと、将来像ですが、多くの住民が参画して、さまざまな地域課題に取り組み、解決して、地域が発展しているという地域にしていきたいと考えております。そのためには、多くのさまざまな立場の方々が主体的に取り組んでいる状態というのが必要だと考えております。

そのために、めざす状態の概ね3～5年を念頭に設定というのがあります。1つ目の区民主体のまちづくりの支援。こちらについては、引き続き地域活動協議会に対して財政的な支援を行うとともに、中間支援組織、まちづくりセンターによる専門性を生かした支援を行っていきたいと思っております。

2つ目の項目です。多様な協働による地域活動の活性化であります。これはイベントの開催や、ふれ愛パンジーの環境整備などを行うことなり、それから、区民の公益活動に

係る情報の収集なり発信を強化することによりまして、さまざまな団体などがこれまでの枠組みを超えたネットワークを形成できるように支援していきたいと考えておるところでございます。

区役所からの説明は以上でございますので、活発なご議論をよろしくお願いいたします。

【松山議長】 どうもありがとうございました。

まず、最初の課題でございますけれども、各地域で地域力の増強を図っておられると思いますけれども、課題であるとか、ご意見をお聞きしていきたいと思いますけれども、どなたかご意見ございませんでしょうか。

実際に活動されておられる方で、辻さん、いかがでしょうか。

【辻委員】 また後で。考えていることもありますので。

【松山議長】 ありがとうございます。

中野さんのほうからどうぞ。

【中野副議長】 いつも区役所さんにはお世話になって、ここまでの話をしているのかどうかということもあるんですけども、ちょっとやってみたいなと思っております。

これ、今ここを出していただいたことは、全て私どもは過去からやってきたことで、現在もやっております。ということで、これは連長さんがみんなやっておられると思います。それ以上のことを、10年間たつて東成区がどう変わったかとか、これから東成区がめざすところは何やという大きな課題を、我々が区政会議で取り上げていくのが1つの筋でもあるんじゃないかなと、僕は思っております。また、確信しております。

いうようなことで、東成区はどっち向いていってるんやと。今までどおりでええんかと。これ、書いてあること、ほとんど今までどおりです。ということで、もっと前を向いて、例えば商店街のシャッター街、商店街、これをどうするんやと。東成区でいろんな立て直しを考えていくのも、区政会議の1つやないかと思えます。だったらどうするんやということを、僕はこの会議で練っていく時間が必要やないかと思えます。こればかりにこだわらんと。これも大事なことですよ。再確認する意味で大事なことです。やっぱりそれ以上のことを考えていくのが区政会議やないかと。

それと、ここに「にぎわい」と書いていますね。にぎわいとは何やと。人がわいわいやるのがにぎわいです。東成区の住民はやっていますけれども、それだけでいいんか。それで商店街が活性されてるんか。外部から人を呼んだらもっとするんやないかと。外部から人を呼ぶにはどうしたらええかとか、そういうことを考えていきたいと思えます。外部

からね。それにはあの手この手であると思います。私なりに考えて、いろいろ模索しておりますけれども、そのような方向性もひとつここに。

そやから、「地域力」と書いていますけれども、地域力には限界があります。僕は行政力に頼らんといかんと思います。もちろん東成区に頼りますよ。東成区からまた上のほうへ発信していただいて、東成区がこんなこというとんねんと。これに対して、頼むわ、やってくれよということは、ひいては地域住民のプラスになり、また区役所にも大きなプラスになるんやろうと思います。

いうことを考えていますので、これはこれで解きながら、復習しながら、新しい方向性を持ってこの会議を進めていっていただいたらどうかと考えています。冒頭から申しわけないんですけど、前回この会議に上がりまして、感じたことはそういうことなんです。この会議やったら、来ても一緒やないかという会議でした。僕ですよ、私の見解です。皆さんはどうか知りません。私はこれからどんな会議にしていくんやということをしっかりと踏まえて会議していきたいと思います。ありがとうございます。

【松山議長】 中野さん、ありがとうございました。

ほかにご意見は。

地域力と申しまして、今商店街が非常に疲弊しているということで、商店街があつての地域、地域あつての商店街ということで、片っぽが疲弊すると地域力も失われていくということがありますが、今、中野さんはそういうところからすることがあるのじゃないかということをおっしゃっておりますけれども、こちらから。

【森本区長】 今、中野委員が言っていたようなことを、ほんとうは区役所としてもご議論いただいたらいいかなと。ただ、時間的に、まさにおっしゃるように、運営方針であるとか振り返りであるとかとあるように、ちょっと日程に左右されてしまって、十分なお時間をとっていないということは、こちらも反省かなと思います。

前回のときに、東成区の概要ということで、データをつけさせていただいたと思うんですけども、その意図はまさにそういうことで、今だけじゃなくて、少し変わっていく中で、これは運営方針なので単年度になりますけども、今27年度の段階では東成区に何が必要で、さっきおっしゃったように、商店街もありましょうし、さっきブランドと言いましたが、元気な東成区をつくるにはこういう点にもう少し力を入れなければならないのではないかと思います。ざっくばらんに言っていただく会議だと思っておりますので、ありがたいご意見だと思います。

【松山議長】 篠崎さん、どうぞ。

【篠崎委員】 神路の篠崎です。今、深江の中野さんが言われたことにはすごく同感するんですけど、そもそも会議の時間が短いし、ほんで、役所からの報告をずっと聞いて、現実、ほんまのこと言うたら、飾ってるだけみたいな。だから、逆に言うても、来てもおもしろくないという形で欠席されている方も、事実、その方に聞いたことがあるんですよ。行ったって意味がないと。

だから、今なんか、ほんまにシャッターが閉まっている商店街をどうしようかということと、そのテーマでみんなに意見を出してもらおう。それも1つ、ものすごくいいと思うのよね。また、これもこれで、またそれはどうしていくかということをやらなあかんと思うねんけど、来る限りは、やっぱり何か持って帰れるもの、やっぱり区をどうしようかということで、皆さん考えてはると思うんですよ、何か持って帰ろうという。

だから、そういう点でいったら、そういう力強いエネルギーというのか、やっぱりこの中からもらって、また出し合ってやっていかないと、出された紙の中でどうしていくかというのでは、実際、もうほんまに大変になってきている。いわゆる今の大阪市も、全国的にもそうだし、だから、そういう点ではもう報告はいらんと思うねん。きょうはもうある面でいうたら、そんなありませんけど、区政会議のときなんか、特に報告を聞く時間が多いから。ほんで、時間は足りません。私もあんまり言うたら、よけ足らんようになる……。

ほんで、やっぱり出る限りには意見を言う。ただ参加するだけではほんまに意味ない。そやから、やっぱりそれだけ自分の意見というのを言わないとね。そのためには、ある面でいうたら勉強もしているけれど、それ以上やっぱりどうかということを考えないと。発言せんと帰るということは、やっぱりほんまにあほみたい。そやから、そういう点で、やっぱり会議の持ち方をちょっと検討してほしいなと思います。

だから中野さんも、ほんまにアーケードの閉まっているのをどうするかというのでも、ここに来てはる11人だけの意見も、ものすごく出ると思うんですよ。

【中野副議長】 持ってはると思います。

【篠崎委員】 だから、そういうこともやっぱり、それこそ新道かて、この頃もう全然だめになってきているし、だから、そういう点をどうしていくかとかいうようなことも、やっぱり考えていかなあかんの違うかなと思います。

【松山議長】 ありがとうございます。

新道筋、大分人通りが少ないということですか。

【篠崎委員】 少ないのと、閉まっているのがね。やっぱり、閉まっていて、あえてやってもまたあかん。やっぱり、つぶれるところでまた新しい商売をしても、やっぱり長続きしません。これ、妙なもんですわ。

【松山議長】 大店法の関係もありますよね。これだけあちこち大型スーパーができると、まだ日生球場の跡にもできますし、清水谷高校のところにも大型スーパーをつくっていますよね。それだけどこどこできると、商店街が圧迫されているというのが現実でございますけれども、これ、商店街と地域というのは、ほんとうに切っても切れない仲でございますけれども、何かほかにご意見をいただきたいんですけれども。

平田さん、いかがでしょうか。

【平田（芳）委員】 私の感じている、いわゆる私の住んでいる連合におきましても、いわゆるそういう店というものはないんですよ。だから、そういうところにおると、どこへ買い物に行くんだろうかなということを考えて、今、松山さんがおっしゃったように、いろんなところへ出ちらばっていつているように思うんですけど、何せ小さい連合ですので、その割合というものもわからなくて、ちょっとそういう難しさもあるんじゃないかなと思うんです。そういうの、広げていつてあげて、どうしてあげたらええのかというのも、なかなか難しい検討じゃないかなと思うんですけどね。

【中野副議長】 今おっしゃった意見の中で、例えば人を集めるのはどうしたらええか、人が来ないから商店もできないという、商店がないから人が来ない、どっちが正しいか、僕はわかりません。

でも、僕らは商店をつくってくれというてもできません。だから、商店をつくるにはどうしたらええか。僕は人を集めることだと思います。人を集めるにはどうしたらええ。今現在、ほとんど魅力がないです。どこで魅力をつくって、どこで外部から人を呼ぶんやという、この方法論を考えていかんとあかんと思います。そうすると、人が集まったら自然に商店もできると思います。

今いうたら、歳いつてるから店やめはってんとか、する人が、担い手がないからやめはってんとか、それはなるほどそのとおりです。でも、魅力があつたら若い子もやります。魅力があつたら。その魅力をつくるのが我々の仕事ではないかなとも思います。これは、もちろん地域も頑張らんといかん。そやけど、地域だけでできんことはものすごくあるんですね。これ、もう行政の力をおかりしたいということで、行政と1つといいながら、前を向いていくということが手段やと思います。

ということで、とにかく人を呼ぼうやないかと。そのかわり、ただ、人を呼ぶことによって、必ずまたマイナス点も出ると思います。やっぱり治安の問題とかありますけども、とにかくこの希薄になった自分たちの体質ですわ。とにかく、信頼というものが今消えています。信頼ね。その信頼を取り戻す。全てこのごろ、信頼より悪につながるものが新聞紙上をにぎわしています。信頼について、新聞紙上、ほとんど載ってませんわ。だから、とにかく信頼を取り戻して、まちづくりに取り組もうやない。信じてつながらんといかんのです。

それと、僕ちょっと言い忘れましたけれども、「にぎわい」と「きずな」でしょう。きずなというのは信頼なんです。これ、きずなはコミュニケーションです。そやから、にぎわいときずな、2つの課題があるんです。この課題は決して別個のものではないですけども、それをうまく合わせながら、取り組みながらやっていったらいいな。

うちの地域では、この後ろのほう、コミュニケーションについてもものすごくやっています。いろんな活動をしながら、手段を持ってやっています。それに対してはまあまあ動いているなという思いがありますけども、最初のにぎわいについては全然です。このにぎわいはどう取り戻そうかという思いで、今取り組んでいます。それにはやっぱり行政さんのお力添えをいただいています。

ということで、やっぱりにぎわいときずなは1つのもんやと思います。ということで、この会議を実のある会議にやっていったらどうかなと思います。ありがとうございます。

【松山議長】 どうもありがとうございます。

実際、横のつながり、何もしなかったらつながりもできないので、深江さんの場合はほんとうにイベントだけじゃなく、行事もたくさんやっておられて、そこから自然とそういうつながり、信頼ができてくるのもたくさんあると思いますけれども、まず担い手が、商店街の担い手、あるいは、いろんな担い手が少ないというのも現実だと思いますけれども、何でも結構です。ご意見いただきたいと思います。

北岸さん、いかがでしょうか。

【北岸委員】 私のところの北中道地域は、にぎわい部会というところで、商店街というのはもう皆無に等しいです。ありません。成人病センターの跡地をどうするかによって、人がどうして来てくれるかというのを、もう今既にちょっと始まっているんですけど、これから地域でやっていこうとしているんですけど、このメンバーさんの中には、今うちの地域は私が代表で来ていることが、何か間違えてるの違うかなと思うたりするんです。も

し何だったら連長さんがよかったのかなとか思うたりするんですけど、古い、ずっと活動の中身はもう何十年とやっていますから、いろいろと知っておりますので、自分の発声の言葉というよりか、ここでお聞きして学習したことを地域におろして、それを伝えていくというのが私の役目や思うて、ここに参加させてもらっているんです。

だから、おこがましい、うちのところのどうこうというのは、会議の中でまだ見えてきていません。見えてきていないのを、自分なりの感じたことはこれから発声していかせていただきたいんですけど、今のところ私は一番力を入れているのは、この中で安心・安全部会の防災。

このところは、北中道はまあそういう場所です。だから今、私たちが一番大事にせないかんこと、後世にちゃんと、このときにこういうことをしてくれたなということを、実績を段階を追ってやっていくというのが、北中で去年から始まった防災とかの活動です。

商店街に関しては、今里商店街、神路さん、ほんとう大型店舗がいろいろありまして、あっち向いて行くということが少ないですね。で、自転車で通ってはいけないというから、どうしても遠いところだから足が遠のいてしまう。そんな感じです。

【松山議長】 ありがとうございます。

地域力、いろんな面から見ていただけると思うんですけども、実際、商店街を担っている人間の数も随分少なくなってきたおられて、ほんとうに今までの半分ぐらいというのか、夫婦でやっておられて、どちらかが抜けたらもうどうしようもないとか、ちょっと外れのところへ行けば、片方が働きに行ってはって、1人で店番をやっておられるとかいうのが現実でございまして、そういうところに後継者がいないというのも現実で、実際に70近くなったり、70を超えてやめられていくと、商店をそのまま閉めてしまわれるという場合もあって、徐々に商店街のほんとうに廃れてくるのが、地域力のアップにどうも難しいとつながってくると思いますけれども、辻さん、どうでしょうか。

【辻委員】 私、防犯のところで発言をしよう。

篠崎さんがおっしゃったように、論議する時間が非常に少なく、あまり私ばかり発言をしていますと、皆さんの意見が聞けないという点がありますので、発言は少なくしようかなと思っているんですが、商店街の問題については、天神橋商店街が非常に廃れたときに、それなりにすごく大きな取り組みをされて、今、繁昌亭なんかつくられて、活性化してきているんですよね。そういうところを、商店街の方々だけでなしに、行政もどうすればいいかということをやっぱりきちっと話して、研究をしていただく。見に行ったり聞

きに行ったりして研究をしていただいて、やっぱり商店街の活性化がなければ地域力というのは生まれてこないと思うんですね。

長くなるからもうこれぐらいにしておきますけど、やっぱり行政の力というのも非常に大事だと思います。担い手が少ないということもよくわかりますし。でも私は、商店街がにぎわいを取り戻すためにはどうしたらいいのかということは、よく考えていかなあかん課題であると思います。

【松山議長】 ありがとうございます。

実際問題、国の24年度、25年度の補正予算におきまして、商店街に対する助成金、まちづくり助成金とにぎわい助成金、24年度は200億円というのが出ておりまして、25年度の補正予算も百何億出ておりまして、各商店街、随分手を挙げておられるんですけども、それだけ国がお金を使ってくれといっても手を挙げれない、つまり、基礎体力がないというんですか、手も挙げれないといたらおかしいですけども、そういう商店街がごまんとあるというのが現実でございます。なかなか商店街の活性化と一口で言っても、実際行政も一生懸命かかわっておられるんですけども、なかなか難しいところがあるというのが現実でございます。

もしよければ、次。

どうぞ、西村さん。

【西村委員】 2点ほど提案があるんですけど、まず1点は、僕らも中道の連合をやったり、してやいうてボランティアで動いているんですけど、要するに若い人をどんどんこの組織の中に取り込んでいかないかんですが、なかなか入ってきてくれなくて、年寄りでもう死にそうなのに、まだやっているようなところがあるんですけど、やっぱり若い人が入ってくる動機づけというのが必要やなと思うんですよ。そういった意味では、例えばボランティアをやったらボランティア券をもらって、その券をもらったら、自分が年寄りになったら、例えば介護を受けれるのに使えるとか、何かそういう商品券的なものを差し上げるみたいなことがあればね。だからそういうものがあれば、何かちょっと動機づけになるのではないかなというのが、提案が1つあります。

もう1つは、年寄りはすごく増えているんですよ。にぎわい、きずなという、そのきずなというのは、やっぱり結局、人と人と、立ち話でも話をする、井戸端会議をするという場が必要なんですけど、今、井戸端がないわけですよ。僕の家は、家を出たらすぐに信号なんです。信号のところで、うちの前で、1時間も2時間も立ち話してるおば

ちゃんがいてるんですよね。もう中に入っとっても、大概何しゃべってるかよう聞こえるぐらいしてしゃべってはるんですよ。

要するに、交差点というのは、ある意味では人と人の出会いの場なんですよ。僕よく思うんですけど、物理的に可能かどうかわかりませんが、例えば交差点に椅子を置いて、そこでもう1時間でも2時間でもしゃべってちょうだいよみたいな、そんな場所ができるところをつくっていただいたらいいんじゃないかなという。それがにぎわいにもつながっていく、きずなにもつながっていくとは思いますがね。

以上です。

【松山議長】 若者の力が必要であるというのは、防災でも防犯でもみんな一緒なんですけれども、最後に工業会のほうから、にぎわいについてご意見いただきたいと思います。

桑田さん、よろしくお願いします。

【桑田委員】 工業会という形で直接関係あるかどうかは別なんですけども、鶴橋商店街さん、あるいは新橋通商店街さん、土曜昼市とか、土曜にぎわいとか、いろんなことを企画して実行されているんですけども、ほかの地域からの参加というのが案外少ないんじゃないかなと思うんですね。それぞれで勝手にやってるわという部分があって、どうもその辺をもうちょっと広報的にというか、せっかく皆さんがやっているんだから、協力してあげようという気持ちを持ってもらえるように、何とか続けていかないといけないのかなと思います。

今度この24、25日に東成区民センターでモノづくりフェスタをやるんですけども、一応これ、商工会議所主体で、今回10年目、10回目ということで、1つの区切りをつけようとしています。そうすると今度、東成の工業を、どういう形で中小企業を盛り上げていくのかという部分で、今、街道玉手箱に何とかひっつけて、子どもたちと、あるいは地域の人と製造業とをどこかで結びつけられたらいいかなとは考えているんです。

そういう形で、前から言っているんですけども、いろんな会が同じようなことを別々にやっているところがあるので、バザー1つにしても、まとめて3個のバザーを1カ所でやるとか、同じ日にやるとか、そういう形でまとめる人をどなたか行政のほうでつくっていただいて、調整をしていただければ、また違うにぎわいが出てくるのではないかなと思います。

そんなところです。

【松山議長】 ありがとうございます。

まさにそのとおりでありまして、このものとこのものがひつついたり、連絡するというのはなかなか難しいところがあるんですけれども、例えばそこに行政が入って、連絡をとり合ってくれはるということがあれば、わりかしスムーズにひつつきやすいのじゃないかなという感じはいたします。

今、ほんとうにしんどいときでございますので、常にどの組織も外に向かって情報がなか、何かいいお話がないかと、耳を傾けている状態だと思いますので、今の桑田委員のお話は非常に有益かと思えます。

それでは、次の項目に行きたいと思えます。

ご説明よろしくお願ひいたします。

【原課長】 それでは、次、防災の課題でございます。大きな紙の防災のほうをごらんください。

まず、現状でありますけれども、今、地区の防災計画、今年4月から国の法律が変わりまして、各地区でも自分たちみずからで地区の防災計画をつくって、それぞれの市町村に対して自分たちのつくった計画を反映させていくという取り組みが始まったばかりなんですけれども、東成区でもその作業中というか、取り組みをされているのが1地区あるというのが今の状況でございます。

その下の要因分析、訓練のことでございますけれども、一つ一つの訓練がパートごとにとどまっておるということで、実際に災害が起きたときに、組織立って全体的な動きというのが、なかなかまだ不十分ではないかということ进行分析しております。

あと、そういうことから課題であります、先ほど申しました、地区の防災計画を策定する取り組みを通じて、それぞれの具体的な、効果的な取り組みをつくっていきたいと考えております。

26年度の運営方針で、今行っていることですが、それは左側の一番下のところでございますけれども、地域防災リーダーの技術訓練でありますとか震災訓練を、ご存じのように、この間、皆さんとともに取り組んでおるところでございます。

あとそれから、啓発も、さまざまな機会を通じまして、東成区でつくりました防災プランの説明と、周知などを行っているところでございます。

こういうことを受けて、右側でございますが、区役所が考える方向性ですけれども、めざすべき将来像ということで、一言でいってしまうと、総合的な危機管理機能を拡充しますということで、そのために、具体的には地区の防災計画の策定という取り組みを進めてい

きたい。それと、あとは特に収容避難所でございますが、地震が起きたりして、ぱっと収容避難所を開設するところまでは各地区でも実際行われているわけですが、もう少し長期間の避難生活なども考慮しながら、そういった訓練も取り組んでいきたいというのが方向性でございます。

説明は以上でございます。この中身にかかわらず、さまざまなご意見をいただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

【松山議長】 どうもありがとうございました。

今も台風19号、大きな台風が来て、どうなるかわからないと。ひょっとしたら、大阪直撃になるかもわからないという状態でございますので、どんどんご意見をいただきたいと思います。

どなたか、まず最初にご意見いただきたいと思いますが。

山本さんはいかがでしょうか。

【山本委員】 大成もいろいろ訓練はやっておりますが、毎月協議会をやっておりますので、一応、今度集会所の避難訓練を会議の後にやろうかということになっていきますので、何回やっても、なかなか、訓練でうまくできません。本番になったらもっとややこしいと思いますからね。何遍訓練していてもよいと思います。重ねることが一番大事だと思いますので。

【北岸委員】 ここでそうしたら手を挙げさせてもらって、また続いてということ。

【松山議長】 北岸さんですね。はい、どうぞ。

【北岸委員】 北岸です。

ここでちょっとお願いしたかったんですけど、北中の場合は公園がありません。小学校も疎開道路ができた状態で運動場も狭くなって、収容人数は、全部入られたら絶対難しいところなんです。大阪城があるやんかというけど、そこまで行くよりか、まず自分らのところは学校でということで、人の整理をせないかんということで、そこから始めると思うんですけど、成人病センターの跡地は、東成区じゃなくて府になるんですね。そうしたら、私たちのいろんな要望とか意見というのを、ここの中で出させていただいて、それを東成区の方に、私の地域のことだけでいうのでもないですけど、考慮していただいて、発言していただくということもできるんですか。

【森本区長】 この場ということではないのですが、地域だけではなくて、まだ少し先なので、今は府のほうがお考えになっていることは、ご説明し、計画はどうですかと、地

域の方にご説明していると思いますけど、段階が来ましたらもう少し広げて、東成区としての位置づけを、さっきのご心配事の、公園がいいのかとかいうのは、届けるというか、お話をするつもりでおりますので。

【北岸委員】 やっぱり、ワンチャンスがありますからね。そこのところ、防災とかいう避難のところにスムーズにいける状態にするために、地域としての意見は必ずそこに上がってくると思うんです。そこを理解していただいて、東成区役所の方も声を出していただきたいと。

【桑田委員】 セっかく府会議員さんが来てはるから、ちゃんとそっちで。

【吉田委員】 北岸さん、この間、石塚会長のところへたまたま行ったときに、府の職員2人いてはりましたん。跡地の話をちょっと一緒にしたんです。

まず、北中道は公園がないと。ちっちゃいのはあるんですけど、人口に見合っただけの公園はないんです。ほんで、できたら大きな公園つくったってくれということは、僕言うたんですけども、まだ10年はかかるねんな。

【森本区長】 少し先です。

【吉田委員】 潰して、10年ぐらいかかんねんて。ほんで、何か向こうの府庁の横に、今、成人病センター、工事やってますね。あっちのほうが先にできてまうねん。で、潰して、それからどこに公募するか、学校呼ぶんか、いろいろ言うてますけど、できたらこの地区は大きな公園がないから、公園つくったってくれと。

【桑田委員】 そやから、今もし何かあったときに、すぐにでも使える許可をもらえるようなことをしとかんとあかんわけでしょう。

【吉田委員】 そやけど、今病院が機能してるのに、そんなわけ。

【北岸委員】 だから、私らの希望は、垣根をとっていただいて、そこからスムーズに。大学ができたり、いろいろイメージありますよ。その中でオープンキャンパスがあれば、そこのところが防災で避難できる場所というのを合同でさせていただくとかいうのを、希望、多分入ってくると思うんですけど。先の話ですけど、先のレッテルはちゃんと張つかへんかったら、後世に何しとってんと私ら言われるから、やっぱり大事なことは第一歩として、していきたい。

でも、今の最前のにぎわいのところに1回戻らせてください。うちはハロウィンパーティーはするんですけど、当初してたんは、結局東京の銀座みたいに、疎開道路を皆さんのハロウィンの、何時間だけ歩行者天国にしてほしいとか、そういう希望なんかもあるんで

すけど、絶対無理やなということでおさめているんです。だから、そういうことも子どものきずなとか、そこのところでだめやということで、仕方がないですね。

そやから、やっぱり防災というて、ここの根本的なそこのところがなかったら、私たちは学校だけの収容でどう準備していったらいいか。というところで、北中の発表はこれで終わりにしときます。

【吉田委員】 収容の話ですけど、うちの小学校の講堂でも、あれ、定員何人やったかな、280人ぐらいでしたね。大体どこの学校も、小学校もそのぐらいだと思います。まして、うち東小橋ですけれども、2,000所帯ちょい。ほんで、商売皆入れて、戸数が三千五、六百あると思うんです。

だから、そんなもん、いざ震災になって、大きな地震でも来たらとんでもない話で、一割入れるか入られへんかの状態です。

【山本委員】 昼間やったら特にや。

【吉田委員】 だから、もうほんまに僕らから言わせたら、見せかけだけの避難所、形だけのね。中学入れても、ええとこ400人、中学が350人ぐらいかな。ちょっと大きいねやろ。

【原課長】 避難のときは、学校は教室とか全部使いますので……。

【吉田委員】 教室も使えるけど、講堂としてね。はよ言うたら、放送設備もあってもや、停電してたら使われへん。ほなら、そこにおる人しか行きわたらへんやんか。もの言うてもわかれへんし、教室入ってたらわかれへん。それは、電気もみんな使えるぐらいやったら自分の家におるわ、はっきり言いまして。

そやから、やっぱり、行政のほうも今まで避難所や何やいうていうてるものの、形だけの避難所をつくってたという意味にとられても仕方ないねん。

【松山議長】 吉田委員、どうもありがとうございます。

北中道も、それから東小橋のほうも、実際問題は山積みというところでございまして、特に東小橋の場合は商店街地域というんですか、まだ旧態そのままとということで、ほんとうに火事でも出れば一体全滅という感じでございますので、それに対する策というのはほんとうに難しいところもありますけれども、ほかの地域で、西村さん、どうぞ。

【西村委員】 この間震災訓練やらせていただいて、備蓄倉庫をもう一遍点検したんですけど、使い物になるような水も、そなん、要するに、みんな押し寄せて来はったら、備蓄量でどないもならへんど。要するに半分ぐらいは期限切れで、これ、どうするのと

いう話なんです。全く、何というかアリバイづくりで、こんなやってますよと、格好だけみたいな、そういう備蓄倉庫ですわ。これはもうちょっと何とかならんかなというのが1つ。

もう1つは、可搬式ポンプの訓練やとか、三角巾の訓練やとか、毎年やっとするわけですけど、こんないざとなったら役に立つのというのが、ああいうものはほとんど全く役に立ちませんよ。

そんなことよりも、例えば携帯電話の充電どうしたらええねんとか、暗いところの照明はどうしたらええねんとか、要するに、参加者が来てよかったなという訓練をやりたいわけですよ。そのための倉庫がないわけで、今はしょうがなしに、今年も可搬式ポンプやって三角巾やってロープやって、ロープなんて、やった明るる日、忘れているわけですよ。そんなこと毎年やってどうすんねんということを、毎年思いながらやっているわけですよ。これはもうちょっと、やっぱ、だから参加者も毎年同じことやっているから、だんだん減っていくわけですよ。また同じことやっとするということですね。もうちょっと何か知恵がないかいなということがあります。

さっきから体育館の話ございますけど、この間、選挙のとき、寒い日でしたわ。そこで、体育館で一日座ってたらけつ冷えて、こんなところで、要するに災害で逃げ込んできたとき、寒いときにどうするねんと、正直にね。もうちょっとそこら辺、何か考えないかなんということをほんまに思った。何かマットを用意するとか。そやから、実質どうなんやとというところ辺、もうちょっと詰めたほうがええんちゃうかなと思いました。

【北岸委員】 もっと予算欲しいですね、この辺でね。

【中野副議長】 今おっしゃることは、僕初めに言った、全然10年前から変わっていないんですわ。それが全てなんです。例えば中央区とか向こうへ行ったら、町並みでも常に変貌しています。東成区はどう変わっているの。そこから見てもようわかります。東成区は何も変わっていません。今おっしゃったこと、そのとおりですわ。

ただ、訓練というもんは練習と一緒にすわ。繰り返し繰り返しやっていくのが、これ、訓練やと僕は思うんです。ただし、今、あの手この手で手を変えてやろうよという西村さんのご意見ですわ。そうすると、また魅力もあって人が集まってくる。人が集まるということは、地域のコミュニケーションに大きくプラスなんですわ。そうすると、安全・安心に自然とつながるという順です。

そやから、とにかく変えようと、どう変えるんやと、変わってほしいなという思いを常

に持ちながら、行政と立ち向かうと。悪い意味で立ち向かうんじゃないですよ、いい意味でね。相談しながらやっていくということを考えていくのがこの会議やと、僕は思います。

【篠崎委員】 神路なんか、避難所、学校と決まってるよ。そやけど、それまでに車椅子が必要な方とか、そういう方をどうしていくんかということも具体的にさせていただかないと、単なる避難所を決めても、車椅子なんかそなん乗せて、学校へ行くまでに無事に行けるかどうかね。そういうことも実際考えもせなあかんし、避難所はここですよと決めても、実際、運営訓練というのが3年から5年の間におおむねやるような形を書いてあるけど、これこそほんまにやっぱり早いこととして、ほんまに車椅子の、どうするんかいうのをね。

そやから、うちらなんかは近くにガレージとか、そういう空き地があればそこで集まって、学校行くまでも相当遠いところもあるから。ほんで1回、避難食を食べようとか、町会や班になったときに経験したことないから。だからそういう、そこの班やったら、町会やったら班だけでもちょっと集まって、1回つくってみようとか、そういうことなんかは実際、なかなか思うとってても、やっぱり神路でする場合は、やっぱり役所なり消防署なりがそういう形でしてもらわれへんかったら、やっぱりできひんのでしょね。

【北岸委員】 違う。篠崎さんが思うてることを、町会長か連合に意見を言わはったらええねん。私らでも、男の人の頭と女性の脳は違うと思うてます。そやから、男の人はできるところは力とか、そういうのを貸していただいて、地域の、私らがお昼いてる力は、女性部はやろう思うて、去年から新しくやり方が変わりました。

車椅子でも、私らはアルミ缶を集めて、年間に何台かいうのがやっぱり集まってくるんですよ。そやから、やっぱりそういうのも全部自分らで考えてする。できへんところは役所。役所の味方してないよ。私は絶対……。

【篠崎委員】 そやけど、やっぱり組織というところは、やっぱりうちらでも女性会なりの組織が入ってるやんな。ほんだら、極端に言うたら、やっぱりその組織に入ったら、組織の長もその気になってくれないと。いうたら、私がやったら、何やかんやいうても文句が出るんよね。

【北岸委員】 それがおかしいやん。文句出たらあかんやん、意見やから。

【松山議長】 篠崎さん、ありがとうございます。

【木口副区長】 地域ごとのご事情もございますし、訓練のやり方でもご意見いただいております、地域ごとのやり方をご検討いただいているようでございます。

今年度以降、地区防災計画と申しまして、地域ごとにいろんな計画を立てていこうという事になっておりますので、その中でまた地域でもご議論いただいて、役所もそこに入らせていただいて、一緒につくらせていただきますので、その中でいろいろな地域ごとに適切な形で進めていただけたらと思っておりますので。まだとりかかったところですけど。

【松山議長】 平田さん、どうぞ。

【平田（芳）委員】 私のところ、私、去年から計画していたやつなんですけど、今年は小学校の子ども全校を入れて、防災訓練をやったんです。そうすると、子どもたちは確かにやりたい気持ちで、あるところにはようけ集まってくるんです。だけど、それだけの子どもを集めたかて、器具が足りない。そういう数の足らんちゅうかね。だから、子どもたちは何をしているかというたら、じっと見ているんですけど、そういうときに、役所からもっといろんなものを持ってきていただくとか、そういうときにだっとそういう準備ができるような体制をとっておいていただきたいと思う。

そら子どもは、消火器やりたい、水飛ばすのにいうたら、3人も4人もだ一っと並んで、待っとるわけですよ。だけど、消防署のほうから来る車は1つなんです。そうすると、みんなができないんです。体験させてやりたいと思って。だから、しょうがないから、低学年はなるべく見学しときなさいよということで見せたんですけど、子どもに聞いてみると、僕もあんなんやってみたかったと。やっぱり小さい時分からぼつぼつとそういうことを教えてやろうと思って僕はやったんですけどね。子どもは確かに、楽しみと遊びと、いろんなものがもう一緒になって、一生懸命やりよったんです。

でね、そこで子どもたちをようけ集めたはいいんですけど、何が困ったかいうたら、まず僕のところは炊き出しのご飯をみんなに分けてやろうと思うたんです。そうすると、備蓄してある米が足らんかったんです。そのために買わないかん。ほんだら、ごっついようけ買わないかんようになったんです。ところが、買ういうたら、今度「東北の地震の方に行ってるから、米はない」と言われたんです。ほんだら、10キロかそこら買うだけでも1万円要ると言われたんです。しょうがないから、それを50キロ買えいうて、5万円出したんです。で、やったんです。ほんで、いわゆる普通にやる米の量よりかちょっと少ない目にして、全校の子どもにみんなやったんですけどね。何かそういう点も区役所として、準備のできるような体制もちょっと考えてほしいと思う。

【松山議長】 ありがとうございます。

それで、前回もご意見いただきました、中学生と一緒にやったらとかいうお話もござい

ました。岡本さんのほうから、ひとつまとめも含めまして、よろしくお願いします。

【岡本委員】　今まで皆、ずっとお聞きしていたんですけど、防災に関しても、その前にぎわいにしてもそうなんですけど、今ここで特に防災のこと、各校下で、連合でというお話をされていましたが、校下ごとによって皆それぞれ事情があります。人数の多いところもあれば少ないところもあるし、当然面積も違います。また、公園も大きい公園があるところと全くないところ、そういったところ、それぞれ違うわけですから、その地域に合った、実情をよく考えながら訓練をされるといいと思うんです。

それはやはり自分たちが考えないと、行政に任せてこれやってくれ、あれやってくれというのは、これはだめやと思います。ほんとうに自分らの訓練であれば自分らが考えないと、住民の皆さん方に残らないと思うんです。だから、皆さんその辺もちょっとよく考えてやられたらいいかなと思います。

例えば備蓄1つにしても、人口が違うわけですから、また行政から来る追加、同じ数しか来ませんよね。当然そうなんですよね。ですから、足らん分は自分らで何とかしようか。自分らということは、連合で用意するのでなしに、それぞれの家で用意してもらうような啓発を連合がせないかんと思うんです。そういう方向で持っていかれたほうがいいんじゃないかなと思います。特に今、行政は金がないとやいやい言うてますので、その辺のところ、お金の要らないような方法もあるわけですから、考えられた方がいいかなと思うんですけどね。

それからもう1つ、車椅子が足らんということなんですけど、それも実際にどれだけの人が必要としたはるのか、何台足らないのかということ自体、調べられたことがあるんでしょうかね。その辺からもやはりひとつアクションを起こしていかないと、例えば今、ではあともう既にどれだけの要援護者、手を挙げられた方がいたはって、何台足らん、各町会平均何台、3台から4台ぐらいの車椅子が必要やということなので、それを各町会長さんをお願いして、これだけあんとこの町会に必要やから、何台ぐらい用意してなということで、もう既に各町会ごとに、完全充足はいきませんけども、今現在もう少しずつそろえていただいていますし、それ以外に、いや、これだけじゃあかな、ならリヤカー買おうかということで、リヤカーも用意していただいている町会もありました。それはその町会に応じた予算も必要でしょうし、そういったことでやっていただければいいんじゃないかなと思いますね。

今、この会議で議論するのは、やはりもう少し区全体のことを見渡してやっていただき

たいなと思うんですが、前回からちょっとお話ししましたように、今、この東成区の震災、昼間に起こったときにどれだけの人が動けるのかなということで、昼間人口と夜間人口の数字が出ているわけですが、先ほどどなたかおっしゃったように、昼間、子どもと女性しかおらんというところがほとんどやと思うんですが、そうすると、その中で何とかやっていかないかんわけで、若い人はもうみんな働きに出たり、高校、大学に行ったりして外へ出ていますので、今残っている者で何とかやる方法をこれから考えていかないかと思っています。

その中で、やはり一番頼りになるのは、もう中学生しかおらへんやろうと。で、中学生に何とか防災ということに目を向けてもらって、手助けをしてもらいたいなということで、実は中学のほうにもそういう話をしたんですが、なかなか前に進んでいかないので、そうしたらということで、今、小学校高学年を対象に、ぼつぼつ今からそういう防災教育を我々がしていこうということで、学校と協働で、ことあるごとに話はさせてもうてるんですが。

また今、土曜授業で、学校も防災教育に取り組んでいこうかというところが増えてきていますので、そういうところをうまく使って、地域と一緒に頑張って努力をしていこうということで進めているんです。これはおそらく、各校下、全校下回られると思います。消防も今、一生懸命そちらのほうに力を入れてやってくれていますので、一緒になってやればいいんじゃないかなと思っています。

今まで、私も中学校、中学生に話をしたり、やってきたんですが、何か防災というのは、いいのは、必要なのはわかってくれるんですけど、「そんな、おっちゃん、時間ないわ」、「クラブのほう忙しいからあかんわ」とかね。そうみんな逃げられてしまう。そうすると、もうちょっとそのやり方を変えて、逆にクラブの1つとしてつくってもらえへんやろかな。ボランティアクラブ、防災クラブ、名称はいろいろあると思うんですが、そういう方向でこちらから提案をしてみたいなと思っています。

これ、大阪じゃないんですが、ある先進の地域での話なんですが、中学生、高校生に防災の知識と訓練を行ったと。そうすると、その回数、時間に応じて、学校の点数に組み入れてもらえるという取り組みをしているところも現実にありますので、私もそちらのほう、もう少し勉強してみたいなと思っているんですが、残念ながら、東成区に高校、大学がないので、直接的にはいきませんが、例えば近隣の高校、大学なんかにお話しして、そういったところまで広げていきたいなとは思っているんですが、現実には何とかそ

の辺をめざしたいなと思っています。

区役所のほうに、区長に、1つお伺いしたいんですが、前も少しお話ししたと思うんですけど、各データをいただいています資料編で、昔から私も言うてるんですけど、東成区の緑化率が非常に低い。また、1人当たりの公園面積も大阪一低いということを、実際にどう捉えておられるのか、今後どう考えておられるのか、その辺をちょっとお聞きしたいなと思います。というのが、この辺が先ほども話があったように、避難所が足らんという1つの大きな要因でもありますので、その辺も解消の1つになるんじゃないかなと思っています。

今、こういう経済状況ですので、新たなものを創造ということはできないと思うんですが、その中でもやはり使い方によっては充足できるようなところがあるんじゃないかなと思うんですが、その辺いかがでしょう。その辺をお聞きしたいなと思うんですけど。

【松山議長】 区長、よろしくお願いします。

【森本区長】 緑化率じゃなくて、公園が少ないという点からということですよね。

【岡本委員】 そうですね。

【森本区長】 東成はほんとうに公園だけではなく、さっき北中道の北岸委員がおっしゃったように、公園自体があってもそんなに広いところというのは少なくて、それが1つの課題というのは思っています。

ただ、例えば地域によっては、大きな工場や物流倉庫だとかあるところがぼーんと空いて、マンションが建つときにセットバックして、大きな公園みたいなのをつくってもらいというところもあるんでしょうけども、東成の場合は何か空き地ができたとしても、マンションが建っても小さいマンションだし、そういうことがなかなかできないというので、何を対策にするかというのが、区役所としても見えているかといったら、正直言って、お答えがあるという状態ではないです。

ただ、課題として持っていますので、先ほど言いましたような、公園とか、広場ができる機会などがあれば、そういう点も考えながらやっていきたいとは思っています。抜本的に、ここができそうだとところが、先ほど言いました、1つの北中道の成人病センターの跡地ぐらいいしか大きな土地がないので、何か工夫をしながら、例えば空き地に関して、そういうことを考慮させていただくということは、これからは少し考えなければいけません。それは多分、皆さんが避難をしていただけるような場所というのは、あまりなかなか出ないというのが正直なところかなと思います。

【松山議長】 ありがとうございます。

防災と防犯、お互い密接な関係がありますので、防犯について少し説明いただいて、その後で防災も含めて議論をしてみたいと思いますので、ちょっと防犯について。

【原課長】 一言だけ構いませんか、防災のことで。

【松山議長】 はい、どうぞ。

【原課長】 今ほんとうに多くのご意見いただきまして、ありがとうございました。そういう意見を踏まえて、今後も区役所として努力してみたいと思います。

1つだけ、備蓄のことを西村委員からおっしゃられていたんですけど、大阪市の場合、避難想定者数が33万人というのを見込んでいます。それの方々が1日だけ耐え得るものを備蓄しようということで、各小学校であったり、区役所もちょっとありますし、あとは5カ所の大きな備蓄倉庫があるんですが、そこに分散して置いていて、いざというときには必要なところに運ぶということになっております。

学校の水は期限が切れている、これがどうしても気になりまして、ちょっと発言させていただきまして、期限切れになる前に入れかえて、ちゃんと古いのは処分して新しいのを入れるというふうにしておるはずなんですけど、またそれについては確認させていただきますので、よろしくお願いします。

吉田委員からおっしゃられた、避難所のスペースも、全所帯が入るということは全然ありませんので、岡本委員もおっしゃられたように、それぞれの地区に応じてどういうことができるのか、どういう取り組みが必要なのか、区役所に何ができるのかということとを考えるとともに、進めてまいりたいと思います。よろしくお願いします。

【山口課長代理】 一言だけ。

水が期限切れのやつを置いているというのが、基本的に期限が切れたものはうちのほうで回収するということになっているんですけども、地域の委員さんによりましたら、飲料ではできへんけれども、生活用水とかいう形で使えるので置いといてくださいということ、毎年入れかえのときにご照会させていただいて、残しておいてほしいというところには古いお水も置いていますので、今の古いお水……。

【西村委員】 そんなん言うてませんで。うちそんなん置いといてくださいなんて言うてませんで。

【山口課長代理】 いや、入れかえの時期ですね。毎年じゃなくて交換の時期です。何年かに一度あるんです。そのときに引き上げる、要らんというときにはうちのほうで処分

させてもらう。

【西村委員】 いや、確認されたということもないし、どうなっているのか知りませんが、ずっと置いてあるというのは、要するに引き揚げてないんやと思うんですけどね。

【山口課長代理】 いや、それは。で、置いていて、生活用水、いわゆる飲み物以外に使えますので、地域によっては置いてあるというところが多いんです。

【西村委員】 いやいや、そうして置いておいてくださいとは、誰も言うてないと思いますけどね。

【原課長】 毎年更新ではなしに、今で期限が5年なので、その時期に問い合わせをしているんだと思うので、また個別に確認させてもらいます。よろしくお願いします。

【松山議長】 じゃ、防犯について。

【原課長】 防犯について、簡単に説明してまいります。

左側の一番上のところ、データでございますが、1年間のデータじゃなしに8月の暫定値ですので、左と右を比べてもわかりにくいと思いますけども、子ども事案であるとか、街頭犯罪については若干減少しておりますけども、右側の女性事案については昨年よりも増えておると。いわゆる痴漢とかが増えておるという傾向にございます。

それに対して、区役所として行っておるのが、26年度の運営方針のところをごらんいただきたいんですけども、特に子どもの犯罪対応能力ということで、各学校の協力を得ながら防犯教室などを行っております。今、既に深江でこの前実施しまして、あと4校の日程が決まっております。それ以外の地区についても今、順次調整をしているところでございます。

あとは、これ、全市的ですけども、丸の3つ目ですが、8月より街頭犯罪抑止チームということで、きょうも回っておりますけども、東成区の場合は2名2名で4名の体制で、自転車です5時から11時まで巡回を週5日間しております。

そういう活動をしまして、右側ですけども、区役所で考える方向性ですが、特に3年から5年を念頭にというところをごらんいただきたいんですけども、先ほど申しました、やはり土曜授業など、小学校と連携しながらの取り組みを行っていききたいということと、あとは区役所と警察、地域が連携して、特に警察との連携は、区役所も今年から定期的に情報交換をかなり頻繁に行っております、先ほど申しました、巡回などに反映させるようなことも行っておりますので、そういう取り組みを進めていきたいと思っておりますのでございます。

以上でございます。ありがとうございます。

【松山議長】 じゃ、防犯だけでなく、防災のほうも含めていただいても結構でございます。ご意見をいただきたいと思っておりますけれども。

辻さん、どうぞ。

【辻委員】 ここではぜひ発言をしたいと思っていたんですが、神戸の事件がありましたから、レックスのサロンに区長も来ていただきまして、私もお話しさせていただいたんですが、ああいう悲惨な事件の後で、もう子どもがものすごく心配するわけですよ。もう怖い、怖いと言うわけですね。その後、神路公園でも2回にわたって不審者があらわれたという、これはきのう、おとついぐらいですか、学校からの案内でわかりましたけれども、そういう話をサロンの中でやっていると、やっぱりあそこの街灯が暗いとか、いろいろな要求が出てくるわけですよ。

いろいろ問題はあるかもしれないけれども、やはりもう少し安全なまちづくりを進めていかなければいけませんし、それは区役所だけに頼ってしまうのではなしに、自分たちも大いに意見を言って地域力も高めて、子どもたちを守ろうやないかという、発信できるような力を持とうということは、その場で話が出たわけです。非常にいいことなんですが、安パトさん、青パトさん、走っていらっしゃいますね。青パトさんの音量が低いですね。やっぱりもう少し、あまり迷惑と思わんと、そういうことはやっぱり子どもを守るんだから、もう少しボリュームを大きくして、みんなに啓発をしていただきたいと思います。

防犯灯の設置なんかでは、私は東中本の中本3丁目ですけども、皆さんご存じかわかりませんが、森ノ宮のほうにきゅっと下がって、斜めに入っていく道にちょうどレックスマンションというのがあるんですけど、斜めの道が非常に暗いんです。お店がありますでしょう。お店の灯が消えますと、これもう、ものすごく暗いんです。このごろ、防犯灯をつけているお家も早目に消しはりますのでね。ですから、そういうことはやっぱり地域の意見を酌みとっていただいて、できるものであれば、お役所としても対応していただきたいなと。地域に対する要求があってもいいと思うんですが、そういうところはちょっと注意をしていかないと、大変危険なまちになりつつあると思うんです。

この前、レックスマンションの中に、脅迫犯です、被害者と加害者とかが、全然レックスマンションと関係ないんですけども、8階まで勝手にばつと行きましてね。その加害者のほうは逃げたんですが、被害者の方は中本の交番へ行って事情を言われて、ものすごくたくさんの警察と鑑識の方たちとが来られて、私たちもびっくりしたんです。

こういうことが日常茶飯に起こるようになれば大変ですからね。地域でそういうことに警戒するよという啓発と同時に、区のほうとしても、子どもとかお年寄りとか、ひったくりもいっぱいありますし、痴漢もありますしね。この件数、見ていたら少ないと思うんですけどね。ですから、警察からそういう連絡、来ています？ レックスでそんなことがあったとか。連携しているというなら、そういう情報もきちっとつかんでいただきたいと思いますと思うんです。

ですから、そういう地域の防犯の問題については全体で、我々も協力もしますし、一定の方向性を示していただきたいなど。安パトさん、青パトさん、自転車のあれだけじゃなしに、地域の皆さんが危険だと思っているようなところをほんとうに地図に落としていただいて、集中的にやっていただくとかね。

ちょっと長くなりますけど、うちの言われた意見の中では、くすのき公園というのがありますが、小学校のいきいきに行かない子どもたちが、そこで集まって遊んでいるんです。お母さんたちは「もう絶対早く帰ってこないと危ないよ」と言うんですが、昔は多分「6時になりました、皆さん帰りましょう」という放送が、私あったような気がするんですけどね。そういうこともひとつ考えてほしいという意見もありましたので、参考にしていただきたいと思います。

それと、ちょっと長くなりますけど、防災のほうで、私やっぱり大事なものは、成人病センターの跡地の問題を、これ、その地域だけの問題にしないで、私も学校を建てるということは、府知事の方がこの前の何かで、誘致するとかおっしゃっていましたのでね。そういうことではなしに、もっと住民の声を聞いて、ほんとうにこういう東成の地域は緑化力が少ない、公園もないということがはっきりしているのであれば、どんどん意見を上げて行って、やっぱりその中に入れていただかないと、間に合わないと思うんですよ。来年3月ぐらいには、もう案として出されるということになっていると思うんですがね。それまでに大いに住民の意見を聞く機会を持っていただきたいなと思います。

やっぱり一定の建物が建ってしまいますと、なかなか区民のためには使うことができませんので、公園を確保していただいて、種地として移動させてどこかで見つけるとか、そういうことも考えていけるんじゃないかなと思うんです。そうしないと、東大阪の人もおっしゃっていましたが、東成は何か事が起これば大変な事態になると思っていますので。

【笹部課長】 レックスの道路の件なんですけど、きょうなんか建設局が夜間のパトロ

ールを実施しているという形になっています。それと、街灯の配置というのは、図面上はかなり適切に配置はされているらしいんです。ただ、光の向いている方向が、ある程度下向きに絞った形で、ひょっとしたら、周りの人からのまぶしいとかいう意見があったりとかしてということもあって、絞られている可能性も高いと。それと、あとレックス自体の樹木が結構伸びてきているという話も聞いていますね。だから、一応、建設局が夜間のパトロールをしていますので、そんなパトロールの結果を受けて、何らかの対応というのはできるんじゃないかなろうかと思っています。

【辻委員】 それは毎日していただいているんですか。一遍、役所の人に10時ごろ歩いていただいたらいいですね。

【笹部課長】 街灯が適切かどうかの夜間の巡回ですので、防犯のための巡回ではないので。

【辻委員】 防犯のための巡回をしていただきたい。痴漢が出たというのも、ちゃんとあるわけ……。防犯カメラなども含めて。

【笹部課長】 確かに、僕らも区長と一緒に伺いさせてもらって、帰りに歩いてみたんですよ。何か両脇が、壁が高いような感じがちょっとしたのは。

【辻委員】 それはもう、あの辺はみんなマンションがばっと建ちますから。ですから。

【笹部課長】 だから、樹木の問題とかというのもあって、とりあえず建設局が夜間巡回に行ってくれますので。

【辻委員】 またその報告を待つということやね。お願いいたします。

【原課長】 痴漢の件ですけれども、警察からも情報はいただいております、そういう犯罪の発生しているところについては、夜間の自転車のパトロールであったり、それから、業者に委託しておる青パトであったりを、重点的に配置するようにしております。

【辻委員】 特に公園、子どもたちが帰ってくる時間帯とかいうのはほんとうに、子ども自身がもうおびえてしまって、どこへ行くにも送り迎えせなあかんような、塾へ行くにも送っていかなあかん、また迎えに行かなあかんということが、やっぱり頻繁にあるんですよ。ですから、そういう時間帯に合わせてやるというのは難しいかもしれませんが、住民がそこに目を光らせられるような広報とか、やっぱりそういう宣伝をしていただけたらと思います。

我々は住民同士の話し合いの中で、子どもの見守りをしようやないかとか、そういうことはやらないといけないとは思いますがね。

【松山議長】 ほかにご意見。

岡本さん、どうぞ。

【岡本委員】 今回の犯罪のお話なんですけど、ハザードマップはその都度できていますよね。それをもとにして安パトさんなんかは回っているわけでしょう。それは今、一般区民に公表されていないんですね。

【原課長】 していませんね。

【岡本委員】 それを公表していただいたらいかがでしょうかね。

例えば、下のパンジーで掲示するとか、区役所正面に掲示するとか、それを全てに周知するというのは、これは無理な話やと思うんですけども、やはりタイムリーにそういった方法でしていただくと、また我々も見ながら地域へ啓発がしやすくなりますし、その辺もちょっと考えていただいたらどうかなと思うんですけどね。

【原課長】 警察との情報共有をする中で、区役所で出さないということで、幾つかもらっているような情報もありましたりするので、警察から来た情報を全部出すということには、やっぱりいけないと思うんです。いろいろと影響がございますので。ですから、今岡本委員おっしゃられましたように、どういう形で区民の方々に対する啓発ができるのか、啓発についても検討して、また考えてみたいと思います。

【岡本委員】 今、警察のほうから交番だよりで回っていますけど、前年のやつが回ってきたりですと、あまり即応性がないものですから、あまり意味がないかなと。やはりタイムリーにしていきたいなと思うんですけどね。

【原課長】 わかりました。

【松山議長】 ほかに。

中野さん、よろしくお願いします。

【中野副議長】 先ほど岡本さんがおっしゃったことで、中学生の活用というので、これ、きょうものすごく感じたことがあるんです。うちで行事しているときには、もう年とってきて、これは継続していかんといかん田植えなんですわ、菅田植え。これ、みんな年とってきてがたがたなんですわ。じゃ、この時間だけ中学生をお願いしたいなというところで、岡本さん言わはったように、クラブに頼んでいったら、目的が違うからこれされるんですわ。だから、役所のほうから地域ボランティアクラブでも、活動クラブでもいい、そういう方向づけをやっていただいたら、何でも活用できると思うんですわ。

岡本さん、僕きょう感じたんですわ。そんな話をきょうやってきて、そうしたら、岡本

さんが言わはったから、僕も感じているんです。で、中学生の校長先生、こんな話しましょうと、きょう投げかけたところで。せやから、これ教育委員会か、どこから通したらええんかという問題があって、我々はわからん世界のことやから、ひとつまた区役所のほうから発信していただいて、部会をこしらえていただいたら、また世代間交流にもつながるし、ものすごくいいんじゃないかなと思います。ちょっとお願いということでひとつ。

【桑田委員】 区役所と中学校との絡みというか形は、どういう影響力が持てるんですか。

【木口副区長】 中学だけとはなっていませんけども、小学校の校長先生も定期的に話し合いをさせていただいておりますし、中学校のほうが頻度的にはちょっと下がるんですけど、話し合いもさせていただいています。そんな中でまた。

【桑田委員】 中学は府のほうですか、府のほうですね。

【森本区長】 いえいえ。中学校もお話ししているんですけども、ここの課題ではないのですが、個々の給食の問題がございまして、実は個々の学校にお話ししていたりしているものですから、小学校長会というのはこちらのほうでやっているんで、行かせていただいて、ときどきお話ししたり、今は逆に小学校に回ってお話ししています。中学校長会も、今度こちらのほうで、実は中学校長会というのは生野区と一緒にやっていたらしくなくて、ずっと生野区のほうでやっていたらしくったので、個々に行っていたんですけど、次回から東成区のほうでやられるということなので、中学校長会でもこういうご意見が出ているというのはお話しできます。学校の内容のことに意見をいうことは難しいですけども、区長としてというか、区役所としてお話しすることは十分できるかと思います。必ずしてくださいよとはお話しできないですけど、どうしていったらいいのかというのはお話しできる。

【中野副議長】 それは校長先生のスタイルがあるしね。

【松山議長】 ありがとうございます。

震災訓練も、何年前ですか、六、七年前、実際に中学校区でやったことがありますよね。そのときよりも今のほうが中学生の重要性というのはほんとうに増しておりますし、昔は東成区全体でやっていたやつが、やっぱり校区が違うし、事情が違うのでということで、今、各校下でやっているけれども、ちょっとほったらかしという感じがしますので、その地域の違いをはっきりと行政のほうから示して、この地域だとかこういう訓練が有効ですよというのも示していかなあかんのちゃうかなと思いますね。

それと、防犯のほうは、まだどなたか意見ございませんでしょうか。

防犯灯というぐらいですので、それで明るければ明るいほど犯罪が減るということですが、防犯灯をつけてほしいという要望はよく聞くんですけれども、あんまりそういう要望に対して実現していないという話も聞くんですけれども、これはどんなもんなんだろうかね。ここ暗いから何とかというのは、全部町会の責任でそれをしなければならないんでしょうかね。

【原課長】 大阪市の道か、私の道かによって取り扱いが変わってくるんですけども、大阪市の道である場合は、基準に基づいて30メートル間隔でライトをつけるということが決まっております、それは対応しているはずで、それ以外の私の道については、各町会などで防犯灯を設置していただくにあたっての補助というか、行政が設置して、皆さんで管理をしていただいて、電気代とかを払っていただいているというのが今の状況ですけども。

ただ、大阪市の道も、当然基準に基づいて防犯灯がありますけども、先ほどのケースじゃありませんが、それをしても何か非常に問題があって、暗いとか、何か犯罪が起きているとかいうことであれば、それはまた局とも検討させていただいて、何かできることがあるのかどうか、進めてまいりたいとは思っております。

【松山議長】 そうですよ。その基準というのもいつごろつくられたかによって、基準がどんどん更新されているのか。実際に公園なんていうのは、やはり犯罪の温床になっているのは事実でございますし、夏になれば、やはり中学生、高校生のたまり場となっているみたいですし、犯罪の温床というのはあちこちにあるみたいでございますので、地域でそれを何とか防がなければならないということで、いろんな努力はしていただいているみたいですけれども、今後一層の、横の連携も含めて、そういう事業をやっていただきたいと思います。

もしほかに、何か言い残したこととかございませんでしたら。

【篠崎委員】 青色の防犯パトロールカーは1台ですか。

【原課長】 区役所にあり、区の職員が運行しておるのは2台です。毎日、常時運行しているのは1台で、もう1台は順次ですね。あと、それ以外に業者の方に夜間回っていたいるのがもう1台別にあります。ですから、行政が扱っているのはその3台ですね。

あとは自転車で、安パトの職員が回ったり、夜間は……。

【篠崎委員】 学校11校区あるからな。

【吉田委員】 地区にもあるやろう。

【原課長】 もちろん地区には、地区で独自でされているものもあります。

【吉田委員】 そういう話はもう何遍も聞いているんですけどね、そんな要らんと。回るほどもないしね。うちらやったら、もうぱぱっと回ったら10分で回れるもん。車の通れるところだけね。

【篠崎委員】 最前言い合ったけど、声だけはやっぱりちょっと大きくしたほうがいいと思います。昼に、夜にしても走ってはるけど、青色の安パトの声が小さい。

【吉田委員】 何言うてるかわからん。うちは疎開道路とか通ったら、全然わからへん。

【篠崎委員】 古新聞の回収ぐらいの大きさまではいらん。でも、もうちょっとぐらいのあれ、せえへんと、ちょっと小さいわ。

【吉田委員】 ちょっと遠慮してはるなと思うてる。

【松山議長】 どうもありがとうございました。

それでは、本日の議題の平成27年度の東成区運営方針（素案）の策定に関する議事をこれで終わらせていただきます。

それでは、進行を区役所にお返しいたしたいと思います。

どうもありがとうございました。

【笹部課長】 松山議長をはじめ、委員の皆様方、きょうはスムーズな議事の進行にご協力いただきありがとうございました。

最後に区長、何かあれば。

【森本区長】 座らせていただいたまま申しわけないです。ほんとうにいろんな観点からご意見いただきまして、ほんとうにありがとうございました。

時間があれば、おっしゃっていただいているように、例えば区で検討していたのは、グループにわかれて先にお話しいただくとかいう方法はないかなと、考えていたんですけども、なかなか皆さんがお忙しくもごさいますし、時間をとってもどうだろうということで、今回については、先にこういうメモをして、お考えになっていただいております。お話しただいたら、少し自由なご意見が出るかなと、少しは区役所なりの工夫はしたのですが、皆さんがおっしゃっているように、もう少しいろんな観点から、それからこの場というか、今の時点だけじゃなくて、もう少し先を見込んでどうしたらいいかというのは、区役所も皆さまにお力をかりながら考えていかなければと思っておりますので、ほんとうによろしくお願いいたします。

それと、少し先を見たという点では将来ビジョンがあるのですが、将来ビジョンが前の区長のときにお作りになったものですので、運営方針ができてきますと、多少食い違いが出る部分もありますので、そこについてはこちらのほうで変更もさせていただきながらやっていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

ありがとうございます。

【笹部課長】 冒頭にも申し上げましたけども、このご意見を踏まえまして、27年度の運営方針の素案というのをつくらせていただきまして、今度の10月29日の全体会で、また改めて皆様にご提示させていただきたいと思います。ぜひともそちらのご出席のほうもよろしくお願いいたします。

非常に長時間にわたりましたが、本日はどうもありがとうございました。

—— 了 ——

6 配付資料 添付のとおり